

## 会 議 概 要

会 議 名	令和元年度 第1回豊橋市上下水道モニター委員会
開 催 日 時	令和元年 11月 26日 (火) 午後1時30分から午後3時30分
開 催 場 所	豊橋市上下水道局 5階 大会議室
出 席 委 員	稲田充男委員 (会長)、井上隆信委員 (副会長)、江坂雅世委員、塩瀬真美委員、山本安男委員
欠 席 委 員	功刀由紀子委員、齊藤由里恵委員、新田眞一委員
事 務 局	金子上下水道局長、牧野上下水道局次長、芳賀総務課長、大場営業課長、藤井浄水課長、杉浦水道管路課長、七原下水道施設課長、小山下水道整備課長、鈴木営業課課長補佐、石黒浄水課主幹、中西水道管路課主幹、森下下水道施設課主幹、浅井下水道整備課主幹、中澤総務課課長補佐、峰野総務課課長補佐、石原総務課主査、内田総務課主査、山本総務課主査、後藤総務課主査、内藤総務課主査、橋本総務課事務員
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 挨拶</li> <li>3. 委員照会</li> <li>4. 職員自己紹介</li> <li>5. 令和元年度豊橋市上下水道モニター委員会について</li> <li>6. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 豊橋市上下水道ビジョン2011-2020の進捗状況について</li> <li>(2) 下水道使用料改定について</li> </ol> </li> <li>7. その他</li> <li>8. 閉会</li> </ol>
配 布 資 料	<p>次第</p> <p>資料1 豊橋市上下水道モニター委員会設置要綱及び委員名簿</p> <p>資料2 令和元年度豊橋市上下水道モニター委員会について</p> <p>資料3 豊橋市上下水道ビジョン 2011-2020 進捗状況(令和元年11月現在)</p> <p>資料4 上下水道だより 号外 平成31年2月発行 「平成31年4月分から下水道使用料を改定します」 下水道使用料改定 問い合わせ記録 内容・時期別(R1.7末)</p>
会議の公開 又は非公開	公開 (傍聴者なし)

令和元年度 第1回豊橋市上下水道モニター委員会 要録

発言者	会議の概要
事務局	<p>1. 開会 (略)</p> <p>2. 挨拶 (略)</p> <p>3. 委員紹介 (略)</p> <p>4. 職員自己紹介 (略)</p> <p>5. 令和元年度豊橋市上下水道モニター委員会について 資料2 令和元年度豊橋市上下水道モニター委員会について説明 今年度についてのモニター委員会は今回の一回のみとなっている。</p> <p>6. 報告事項</p>
会長	<p>(1)豊橋市上下水道ビジョン2011-2020の進捗状況について事務局説明を求めます。</p>
事務局	<p>資料3 豊橋市上下水道ビジョン2011-2020 進捗状況(令和元年11月現在)について説明</p>
会長	<p>事務局の説明に対し、質問、意見を伺いたい。</p>
委員	<p>全取組みがA評価・B評価になっていて素晴らしい。</p>
委員	<p>資料3の2頁、配水管整備事業の部分で「重要施設への管路耐震化率100%」というのは伝えられているが、資料3の参考資料2頁で基幹管路の耐震化として「約7.1kmの耐震化が完了する見込み」とあるが、基幹管路はどれだけあるのか、また基幹管路の耐震化が100%になるのはいつごろなのか。</p>
事務局	<p>まず基幹管路とは、我々で設定している水源地から浄水場へ送る導水管、浄水場でできた水を配水池へとつなぐ送水管、配水池から宅地へと流れていくまでの大きな幹線管路であり、豊橋の場合は口径35センチ以上の配水管を幹線と言う。その全長をトータルすると約115kmあり、その約115kmに対しては約7.1kmの耐震化が完了する見込みである。ちなみに、豊橋市の基幹管路の耐震化状況は平成29年度末で累積実績22.0%となっている。加えて耐震化については耐震性能を持った管の割合ということであるが、それとは別にいわゆる耐震管ではないが同等の性能を持つ管があり、それをいわゆる「適合管」(厚生労働省から資料提供有)という。豊橋市は昨年適合管を設定し、適合管を含むと約</p>

発言者	会議の概要
委員	<p>115km に対して現在 47.6%の耐震適合率となっている。国も令和 4 年に向けて全国的に耐震適合率を 50%にしようという目標を示し、我々もそれに合うような形で今現在整備を進めている。</p> <p>適合管を含めて 50%が耐震化されているが、残りの 50%は地震が来たときにしばらく遮断地域が出てくる状況になる。また、資料 3 の 3 頁における下水道のことについて、都市浸水対策達成率は 69.1%、合流式下水道改善率 24.2%を目標としているが、これを 100%にしていくのにはまだ時間がかかりそうなのか。</p>
事務局	<p>都市浸水対策率については、現在下水道の汚水の事業拡大を中心に進めており、汚水の拡張及び合流改善の部分を進めているところである。貯水池の整備等を行っているが、浸水対策の 100%については時間がかかる見込みである。</p>
委員	<p>浸水対策の計画されている雨量というのは、いつごろ策定されたものか。また、ここ数年ゲリラ豪雨や台風の時があると浸水被害が出てくるがそういったものにも対応する程度の雨量にも対応しているのか。</p>
事務局	<p>現在計画降水量は、十年一（十年に一回の確率で降る雨の強さ）で時間雨量 57mm を想定して整備してきたが、最近の想定を上回る災害、大雨によって、平成 20 年に岡崎市で降った 147mm という数値を想定し、それに対する対応を今後考えていこうとしている。この件に関しては今までの想定を上回る大きな災害であるため、ハード対策に加えて、市民に向けてこれ以上大雨が降ったら、というソフト対策も含めて対応を今後考えていこうと思う。</p>
事務局	<p>先ほどの基幹管路の耐震化率について平成 29 年度末の数字は全国平均 24.9%、同じく耐震適合率における全国平均は 29.3%となっている。もう一度繰り返すが、豊橋市の基幹管路耐震化率は 22.0%、耐震適合率 47.6%となっている。</p>
委員	<p>資料 3 の 8 頁 ④経営基盤の強い水道の項目における「キャッシュレス決済の導入を行いました。」という部分で、キャッシュレス決済を導入したことによる現時点の利用率と、キャッシュレス決済を利用したことによって手数料が利益を圧迫しているような影響はあるのか。</p>
事務局	<p>キャッシュレス決済について、実績で報告すると令和元年 10 月からは、LINE Pay が 60 件、Pay B が 20 件、楽天銀行が 7 件という結果が出ている。それ以降の結果はこれからであるため、現時点ではこのような結果となっている。影響については、コンビニ収納についての収納代理業者が、コンビニ収納以外にキャッシュレス決済も収納してくれているため、コンビニと同じだけの手数料となっており、特に大きな手数料がかかっているわけではなく今までと同じである。また、我々は</p>

発言者	会議の概要
	クレジット決済を行っていないため、手数料の面でいくと影響はないが、2～3件電話がかかってくることがある。納付書の方がキャッシュレス決済をしたい場合はいいが、口座振替の方がキャッシュレス決済にしたい場合は、口座振替を優先する形になっているため、その方法をやめて納付書を送る(口座振替の方に納付書は送られていない)対応をとっており、それが2～3件かかってくるのはいるが、今のところ大きな影響はない。
委員	今後増えていくと、何か対応していかなければならない可能性があるのか。
事務局	手数料的に高いものは避けたい。いくら歳入があっても歳出が増えれば目減りするという考えを持っているため、それを避けたく、こういった形をとった。
委員	資料3の参考資料2頁 7(b)管路の適正な維持管理の中で、「■老朽管の増加に対し、調査・点検を行うための必要な技術力を持った職員が不足しています。」という部分で、人員を確保するための努力等については行っているのか。
事務局	調査・点検については、なかなか手が回らないのが現状である。最近ではベテラン職員の退職に伴い、平均年齢が非常に若くなっている。やはり経験値が失われ、なかなか調査ができておらず、成果が上がらない状態である。そこで課の中での職員研修や、去年から今年にかけて南栄給水所の建て替えとそこにあった古い建物を再利用して、そこで研修をするような施設を自分たちで作った。漏水調査や管の修繕等ができるような若者を育て、色々な経験をさせて技術を高めていきたい。
委員	技術的な職員を今いる人材の中から増やしてく取組みをしているといった認識でよろしいか。
事務局	そうである。
事務局	本件について補足がある。先ほどのものは「今いる職員を育てる」という視点での取組みであり、現在もう一つ取り組んでいるものがある。資料3の8頁 【主な成果】で、退職したOBの方や技術を持っている方、現場に以前まで出ていた方々から現場での技術を伝えることを目的に、今年度中にOBを中心としたNPO組織を立ち上げようと今準備をしている。
委員	技術を教えることのできる職員がいると言っていたが、どれくらいの方が参加してくれるのか、見込み人数はどのようなものか。
事務局	現在仕事をしている方もいる関係でそのあたりがなかなか難しいが、20人を目標に考えている。
委員	目標20人ということは、半分いればいいのか。

発言者	会議の概要
事務局	20 人を目標にして頑張りたい。
委員	目標は 20 人だが、なかなかそこに集まらないということか。
事務局	とよすい助け隊という災害時のボランティア組織があり、そういったところでもう少し募集の裾野を広げて、その中から N P O 法人に入ってくれないかというように、目標 20 人が達成できるための仕組みを考えないといけないと思う。目標が達成できるように頑張りたい。
委員	災害対策という形で主に地震を中心に考えられているが、局地的に発生する大雨について、非常に大きく身近な問題として感じる。この部分についてももう少し具体的に市民や利用者に対して、逆流についての対策や、今 H P を見ると節水については 90% 程あるときにも出ているが、水が少ないときの節水のように、大雨に対してはこれと違って特に対策が示されているわけではないため、そのあたりはどうなっているのか。市民に対してなにかアピール等はあるか。大雨が降る時期になるとワイドショー等で水道がどうなっているかが放送され、そういったところからは情報が入るが、こちらの方から入ってくることはないように思える。
事務局	水防法というのが平成 27 年度に改正され、それまでは河川にしても我々が整備している下水管にしても、計画降水量を十年一で設定していた。しかし、平成 27 年度の水防法の改正で今までの計画降水量だけでなく、今後想定最大の規模降雨を考え、対策を取ることとなった。そのような中で、愛知県では岡崎市のゲリラ豪雨の時間あたり雨量が 147mm という最大の規模の降雨で想定し、それに対して今まで作ってきたハード設備だけではすぐには対応できる量ではなくなっており、そういうものに対して市民にもこれだけ雨が降るとここまでは持つが、これ以上になると危険であるということを周知しながら今後の対策を進めることとなっている。その中で本市が取り組んでいるのは、河川の本線に出る手前で捌けきれなくなった雨水に対して、想定する最大の規模である千年一（千年に一回の確率で降る雨の強さ）の降雨があった場合は、これくらいの氾濫があるという「内水ハザードマップ」を作成しており、できあがったものを市民へ広報という形で公表していきたい。
委員	できるだけ早く作って市民へ公表していただき、対策がとれるようにしてほしい。
事務局	本件に関して、市民向けに災害の危険性や雨水氾濫による危険性を P R していくことと併せて、雨水の配慮等に対して上下水道局としてどういう対応をとっていくかを示すことが併せて大切であると思っている。現ビジョンは東日本大震災の前であったため地震に対する対応を想定していないことが多く、どうしても後から対応していくという形になってい

発言者	会議の概要
	た。今回は大雨に対する対策を非常に重大なものとしてとらえているため、AIやIoT等の活用や、国土交通省の方も取り組んでいる先進的な事業に豊橋市でも採用できるようなものがあれば、それらを取り入れながら整理していくことも今回ビジョンを策定するにあたっては大事なところであると思っている。
委員	「千年一」というのは、千年に一回という意味か。十年一というのが、十年に一回であるように。
事務局	そういった認識である。
委員	百年に一回というのは聞いたことがあるが、千年に一回というのは想定できるのか。またそのやり方があるのか。
事務局	千年一というのは、過去に起こった最大の雨量値を想定して決めている。
事務局	過去をさかのぼると千年くらいまではさかのぼることができ、その中で最大の数値を千年一として言っているということか。
事務局	そうである。
委員	前のデータがあるということか。または記録という形で。
事務局	そうである。
会長	意見も出尽くしたようでございます。本件はこれで終了とさせていただきます。
	(2) 下水道使用料改定について
会長	(2) 下水道使用料改定について事務局説明を求めます。
事務局	資料4 上下水道だより 号外 平成31年2月発行「平成31年4月分から下水道使用料を改定します」、下水道使用料改定 問い合わせ記録内容・時期別(R1.7末)について説明
会長	事務局の説明に対し、質問、意見を伺いたい。
委員	広報と商工会議所などでリーフレットの配布をしたという話であったが、配布されたのが2月で4月には使用料は上がったわけであり、周知する時間が短かったと思う。また、問い合わせ内容を見ると、年を明けたころには自治会で集まって翌年の役員を決める等の集まりを思うが、そういったところへの個別説明に伺う等の対応はしなかったのか。また、この辺りへの周知は少なかったように思えるが、少し対応に不足があったように思える。理解が少し得られてない、実際に使用料が高くなってから驚いて問い合わせをした方がいたようであり、それを見てももう少し丁寧な説明をする機会を設けてほしかったと一市民として思う。今後、今の使用料体系を維持できない時が来ると思うが、その時には期間を長めに設け、市民の方への理解を深める努力をしてほしい。
委員	なかなかこういったことに対して周知するのは難しいことであるが、で

発言者	会議の概要
委員	きるだけ努力してほしい。
事務局	次期ビジョンは何年が目標になるのか。また、上水の方でもう少し長期的なビジョンは作られているのか。
委員	総合計画が10年であり、それに合わせて水道の方も10年間の計画を作っている。
事務局	50年先を見通した計画はないのか。
事務局	ない。
事務局	今の総合計画は10年で来ており、次回も10年で制定することになる。「2040」という、今から20～30年後の状況を見越した提案が総務省からあり、法的に基づいたものではないが、今後市の方向性を考えていくうえでそういったものが芯的なものとして必要であると考え、(10年以上先を見通した計画づくりの)検討はしている。ただ進捗状況やいつ発表していくかについてはまだ決まっていないのが現状となっている。そのため次のビジョンは、総合計画と整合した形で作っていくことが、今決まっていることである。
委員	水道にしても下水道にしても構造物の使用期間はかなり長期になり、人口も減少していくなかで、計画としての10年は短い数字であり、より長期的な目標をたて、そのなかでこの10年はここだというような示し方をした方がいいと思う。
事務局	その通りである。今作ろうとしている全体的な計画のうちの、例えば管路については現状がわかっており、どれくらいもつのかわかっているため、それを100年スパン程度のものを作り、その中でどの程度やっていくかを検討して決めていきたい。ただ総合計画の中には、見通せない部分があり、見通せる部分に関してはしっかりとしたい。
委員	その中でどう検討するかわからないが、例えば地域下水道のところはこのまま100年後まで維持していくのかあるいは統廃合等を考えるのか、水道の場合にも給水における県水の関係で、県水を縮小して市独自のものを増やしていくのかあるいは県水に頼っていくように変える、あるいは民営化の問題もあると思うが、そういったことに対してどういうビジョンで考えていくのか聴取して、その中で考えてほしい。
委員	色々な利用層があるため次のビジョンを考える時には、ぜひ考え付くところを中に入れていただけたらと思う。
委員	節水のときは市民に対して節水を呼びかけるが、浸水対策に対して施設的に集中豪雨等が来たら大変だということがわかっている段階で、市民の一人として何かできることはないか考えたが、大雨になるとわかっている段階でSNS等を使って市民に風呂の水を流さない等の行動を呼びかけ、それを全ての市民が一斉に行ったら浸水被害というのは少しで済

発言者	会議の概要
事務局	<p>むのか。テレビ等では浸水した人々が臭いで困っているのを見たことがあるため、そういうのはどうであるか。</p> <p>今回の想定以上の豪雨に対しては、地方公共団体や愛知県がハザードマップを作っているため、こういう機会に近くの川や土砂災害等について地域を知り、その時に慌てるのではなく常日頃からハザードマップを見るよう事前の呼びかけを行っている。今回の長野県での台風で、処理場が浸水してしまったときは、後の対応として、利用者にトイレをなるべく控えてもらう等の呼びかけもあったようだが、事前にはこういった機会にハザードマップを見て、どういう地域がこういった状態になるのかを知ってほしい。そして処理場や下水道関係でいうと、万が一があってはならないが、もしあった場合はそういった呼びかけをすることもあると思われる。</p>
委員	<p>色々な専門家が集まっているため、何か役に立つような情報があればできるだけ色々なメディアを使って出すと市民もわかりやすいと思う。</p>
委員	<p>下水道使用料の改定についてももう少し色々な問合せがあったと思うが、比較的問い合わせが少なかった印象を受ける。</p>
事務局	<p>実際、問い合わせの件数は多くなかった。ただ、根気よく話して納得してもらおうような説明は料金センターの職員も行った。予想ではあるが、口座振替の方が多く、80%程の方々が口座振替であり急な引き落としとなるため、あまり検針票を見ている人が少ないと考える。しっかりと見て、前と違っていると気づく方は連絡をいれるが、ほとんどの人がそうでないといった結果になった。ただ、令和2年4月に使用料改定があり、その時にまた問い合わせが多くなると思うが、次回が地域下水道だけの使用料改定のため、件数としてはやはり少なくなると思う。それよりも消費税の話の方が世間では広まっており、その問い合わせも多少あった。飲料をコンビニ等で購入するのは消費税8%で、水道も飲むとは思いますが風呂等色々なものに使用するため10%であるという説明をしている。</p>
事務局	<p>今年度は春先から節水であり、色々な方に盛んに節水の協力をしてもらい、その分少し水量が減って収入の方が少なくなっているが、水道メーターの回った量で下水道使用料が決まる形になるため、そのへんもあったと思う。</p>
委員	<p>10年間を一つのスパンとした場合、これだけ不確定要素が多くなってきた時代では色々と変わってしまうこともあり、5年で見直しといわず2年くらいで見直す体制で10年のビジョンを立てる形でやった方がいいと思う。何が起きるかわからないのが今の時代であり、全く水のないところから、逆に大雨が降って逆流してしまう家庭が出てきたりと、そ</p>



発言者	会議の概要
委員	<p>ういうことがいつ豊橋に起きるかわからない。地震もあれば大雨もあり、温暖化問題で台風の勢力が従来のもとは比べものにならなかつたり、数が多かつたりと、そのあたりも観点として柔軟に取り込むような形で次期ビジョンを作ってほしい。基本は10年のビジョンを立てないと何もできないと思うが、それでもできるだけ短期間で見直せるようなものを謳っていけるといいと思う。</p>
事務局	<p>バイオマスの関係は、うまくいっているのか。処理量というのは、生ごみと汚泥の計画されている量と実際の量は計画通りにいっているのか。まず、受け入れ量については下水汚泥、市の浄化槽汚泥を併せた量の汚泥関係が、計画量の110%強くらい入っている。それから、生ごみについては、計画量の84%でこれはほぼ想定した通りの数字になっている。それからエネルギーの利活用は、計画では年間680万kwの売電という計画の中で実績としては平成30年度で700万kw強の売電をしているため、計画量を上回っている。また、発酵汚泥を炭化燃料化して売却を行う炭化燃料については、計画量は6.8トン/日が計画量であったが、実績は6.9トン/日でほぼ計画量通りであり、非常に順調な運営状態である。</p>
会長	<p>他に意見はありませんか。</p> <p>意見が出尽くしたようですので、本日の意見は事務局で整理をしていただき、市議会への提出する際に、また市民への説明の際に反映させていただきたい。</p> <p>本日の議事はこれにて終了とする。</p>
委員 事務局	<p>7. その他</p> <p>水道事業の民営化は進んでいるのか。</p> <p>水道法が昨年末改正され、これは水道の民営化を進めるための法律ではないかとマスコミやテレビ等でも取り上げられていた。たしかに全国の水道事業の経営状況はどこも厳しいのが実態である。国全体の人口が減少していく中で我々の活動源である水道料金は減っており、一方で料金が減ったから老朽化対策や耐震対策をやめたり、あるいは施設を半分にする事は装置産業のためできず、経営は厳しい状況である。その中で、一つの考え方として民間の活力を使っていこう、あるいは法改正のもう一つの大きな主旨である「広域化」を進めていこうというものがある。小さな町でも自分のところだけで事業を行うことは、もうコスト的に無理だろうということもあり、民営化と広域化は大きな柱の二つとなっているが、一方で市民生活に一番基本の命の水を民間に任せていいのかという大きな不安もあるのは事実である。その中で全国先頭を切って走っているのが、浜松市である。すでに下水の方はコンセッションとい</p>

発言者	会議の概要
事務局	<p>う方式で民営化に近い形で行われている。水道も同じような方式で一時は進めていたが議会及び市民からストップの声がかかり、浜松でも水道の民営化は棚上げ状態になっている。</p> <p>豊橋市でもそういった状況になりながら下水道に比べると水道は比較的経営が安定してはいるが、当然未来永劫安泰というわけではない。まだ先であるが水道も料金を変えていくときが目に見えるくらいまで近づいている。そういった状況であるが、豊橋市は1年後、2年後、3年後に民営化をしていくという考え方はない。議会の中で質問された経緯もあるが、豊橋市は当面直営で頑張っていくという答弁をしたため、ここ数年のうちに民営化はしないと信じている。</p> <p>本日の会議はこれにて終了とする。</p> <p>8. 閉会</p>